

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276600119		
法人名	有限会社 ヤシマ		
事業所名	グループホームハートライフ一宮		
所在地	千葉県長生郡一宮町船頭給230-5		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://hrt-life.com/guidance.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活に重点を置いたホームの運営を目指しており、家庭の延長といったホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域と共に生きるという本来の趣旨から、当施設では外部との接触を重視した活動をしている。毎月地元の船頭給運営委員会が主催する「ごじゃ処」が再開され、フラダンスやウクレレ生演奏などを行っており以前はよく参加していたが、コロナの関係でなかなか参加できないでいる。最近、勝浦の道の駅、大多喜の道の駅、特にイワシが泳いでいる九十九里の道の駅など、特徴のある所へ出かけている。利用者は、そこでの人々との会話を楽しんでいる。例えば、「どこから来たのですか」と尋ねられると、「どこだっけ」と笑顔で答えている。通りを挟んだ目の前にある特別養護老人ホームとの交流も深まり、災害発生時の一時避難の場所としての提供を受けることにもなっている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時に理念の確認を行い共有している。 ご家族の協力を得ながらご本人が生活しやすい環境づくりを行っている。	ユニット会議などでは理念を確認し合い、利用者の残存能力を最大限引き出せるような環境作りを推進している。職員は積極的に利用者とのコミュニケーションを取り、レクリエーションに積極的に参加してもらおうよう努めている。家族との面会では、利用者は以前とは異なる笑顔を見せている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続き、ボランティアや近隣保育園児童との交流や公民館で行われた健康体操に参加できなかった。(感染症対策のため)	毎月地元の船頭給運営委員会が主催する「ごじゃ処」が再開されたが、コロナでなかなか参加できない。一宮町福祉フェスティバルも申し込んだが、雨で中止になってしまった。保育園の子供たちとの交流や写真撮影は利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一宮町主催の福祉フェスティバルへ参加を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延に伴い中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行により感染予防のため、行政、口調、民生委員、ご家族の参加なく、ホーム職員で3カ月に一度開催している。	コロナ禍で書面開催をしていた運営推進会議も、7月だけ対面で実施した。その中で、メンバーの民生委員から「ごじゃ処」でのフラダンスやウクレレ演奏の紹介があった。また、8月第3水曜日に演奏会が予定されているので是非参加してほしいとの呼びかけがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の交換・共有を図り、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	管理者が役場へ行き、生活保護者のための医療券の発行、介護保険の相談や空き室相談を行っている。また、災害時の補助電源関係の補助金についての相談もしている。町長も出席する半年に1回行われる事業者懇談会に出席し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や社内の勉強会等を行い実践している。	毎月のユニット会議の冒頭で、現在身体拘束を必要とする利用者があるかどうかを確認している。条件が整っていない場合は、拘束を行ってはいけないことを徹底している。社内勉強会では、動画のシステムを導入して、年に2回業務の中で3分から5分の動画を職員に視聴してもらい、研修レポートを提出する仕組みを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会や外部の研修等を通じて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した入居者もあり、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に意見や要望を伺っている。面会制限中は介護記録を定期的にお送りし、様子を把握して頂くように努めている。	毎月、日中や夜間の様子を記した介護記録を送る際に、外出時やレクリエーションの写真を同封しており、家族から喜ばれている。家族の多くの方から、面会制限中でも外出は可能かどうかの質問があるので、人混みを避けるようお願いしている。利用者が家に帰りたいという場合、散歩やドリル(字の練習)などで気を紛らすようにサポートしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議の場において意見を聞く場を設けている。	ユニット会議では、利用者に関する意見や相談が多く出る。例えば、利用者が暴言や拒否を頻発する場合、どのように対処したらよいか。また、居室での問題行動の対処の仕方などについて話し合っている。その他、お湯が出ない等の設備面については、迅速に修理などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になる様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により外部研修への参加が制限されているため、Webによる研修システムを導入し、個々のスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮町主催の事業懇談会への参加や個別に他施設と飲ん連絡を取りあい情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をし、アセスメントを行い、計画作成担当者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をし、アセスメントを行い、計画作成担当者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人・ご家族と話し、何を望まれているのかをよく確認した上で、必要であれば他のサービスの紹介も含め行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の動作の中で、出来る事はして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子観察の中で、必要に応じホーム側より連絡し、来訪の機会作りを促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は電話での交流や距離をあけて顔を見ていただけている。職員が間に入り会話を取り持っている。	親しい友人が面会に来た際は、話が弾んで会話を楽しんでいるが、相手の名前が出てこないことがある。最近では、勝浦や大多喜の道の駅、特にイワシが泳いでいる九十九里の道の駅など、特徴的なものを見に行っている。そこでの人々との会話を楽しんでいる。例えば、「どこから来たのですか」と尋ねられると、「どこだっけ」と笑顔で答えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事によって、孤立しない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会を作り、退居後の様子伺いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や筆談の中で、ご本人の思いを汲み取っている。困難な場合は表情や生活歴等も考え支援できるように努めている。	普段の生活のリズムの崩れた時に、本人の様子を観察し、欲求を探るようにしている。また、具体的には、耳が遠い方で意思表示が可能でも意思の疎通が難しい方には、職員がホワイトボードを使って確認を行っている。着る物については、短めの物を希望されており、家族に伝えて購入してもらったこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の連絡ノートを作り、職員間での情報の共有を図っている。今までと変わらない生活が出来る様に環境づくりを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、様子観察で把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来訪時や電話連絡の際に、以降の確認を行い、介護計画に反映させている。	車いす利用者の家族から「歩けるようにさせたい」という意見が出された。担当者会議に家族も参加してもらい、体操や立ち座りの簡単なスクワット、足の上げ下げの運動を取り入れることを決め、機能向上をサポートしている。病院から退院してきた利用者は夜間にポータブルトイレを使用していたが、体調が良くなってきたため、ポータブルトイレをなくし、体操や歩行訓練の支援をして様子を見ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に記録を残し、全員が把握出来る様にしている。問題等が起これば、その都度カンファレンスやミニカンファを行い、対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族からの要望に対して、別途場を作り対応する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用する機会は少ないが、地域資源の把握はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人に対する医療ニーズをご本人、ご家族と話し合い、納得の上でかかりつけ医を決めていただいている。 また、ご家族やご本人の意向を医師に伝えている。	夜間対応と月2回の訪問診療を行っていることから、入居前のかかりつけ医から医療情報提供書を発行してもらい、ホームの提携医に切り替えている。内科以外で入居前から通院している病院には職員が代行しているが、内科以外でも主治医に紹介してもらうことができるようにしている。毎週訪問歯科からの訪問があり、口腔ケアの指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は利用出来ていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、ソーシャルワーカーに依頼して先生や看護師から状況の説明をして頂き、状況の把握を職員全員が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の現在の状況はご家族への電話等で報告しており、必要に応じ今後の方向について話し合いの場を設けている。治療に関する希望、意思表示の「事前要望書」を記入していただいております、定期的に見直しを行い主治医と共有している。	当ホームを終の棲家と位置づけ、医療行為はできないが、看取り介護まで対応することがある。今年度は2件の看取りを行った。重度化に伴い食欲喪失や排泄のコントロール難となるため、医師の指示を仰ぎながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成を行い、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和5年4月21日、10月20日（消防訓練） 令和5年9月24日（水害避難訓練）を実施した。	4月と10月に、日中を想定した火災訓練が自主訓練として実施され、利用者も積極的に参加した。9月に一宮町主催の津波訓練が行われ、当ホームからも参加し、近隣の特別養護老人ホームまで利用者職員と一緒に避難訓練を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や尊厳を大切に声掛けや対応を行っている。	先ずは、相手のことを受け入れ、本人の真意を探る姿勢を大切にしている。そのためにも、上から目線ではなく呼びかけは「さん」付けとし、失礼のないように注意している。また、相手を尊重する意味からも「待つ」ことを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションのとり方を工夫し、結果を職員の間で情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者様が希望に添って過ごすまでには、なかなか出来ないが、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んで着て頂いたり、女性には化粧等をされ、楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリテーションの中で、食事の準備や後片付けを一緒にしていただいている。ご本人の状態にあった形態で提供している。介助者に対しては、ご本人のペースで安全に召し上がれるように対応している。	利用者が家で行っていたことをホーム内でも極力継続できるようにすることで、認知症の進行を少しでも抑えることを意識している。そのため、出来る人には食事の準備でお手伝いをお願いしている。食事は本人のペースで食べてもらうことを心掛け、安心感を与えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェックし、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りや介助の中、食後に口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科や口腔ケア指導においてケアの仕方や確認をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。立位保持が出来る様に、立位練習を行っている。	職員が気付いた時点で排泄記録をタブレットに入力し管理しているが、記録に残らないこともあるため、排泄の無かった人の確認を申し送りで行っている。立位ができないと排泄も難しいため、足の上げ下げや簡単なスクワット、廊下での手擦りを使った歩行訓練などの工夫をしている。食事においても根菜類を採り入れるようにし、排泄がスムーズにできるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員が体操や体を動かす運動に参加できるようにしている。また、食物繊維の多い食品を献立に取り入れる等、工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は曜日を決めて、週2~3回行っており、一人ひとりの時間や回数の希望に添えていない。	週2日の入浴を基本に、1週間の入浴スケジュールを組んでいる。とかく、元気な利用者ほど入浴を希望することが多い傾向である。入浴を拒む人には時間をずらすなどの工夫をして、入浴を勧めている。ゆず湯や菖蒲湯など、季節に合わせた入浴で季節を感じ取ってもらうことも心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見守り、様子観察の中で体調を見て配慮している。必要に応じて主治医にも相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の疾病と薬の内容を把握し、間違いが無いよう、服薬時は準備する時と服薬する時に、必ずチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来ることを把握し、日常生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスやインフルエンザの影響もあるが、敷地内や施設周辺の散歩、人の少ないところへのドライブ等をお声掛けして支援している。	ほとんどの利用者が散歩をしており、30分位掛けて近くの川まで行き、戻ってくる人もいる。車の量が少なく、通学路となっているため散歩するには環境が良い場所である。外出として、大東岬、白子の河津桜、茂原公園、勝浦市の道の駅など、花の季節ごとにドライブを楽しむ取り組みも行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則として行っていない。必要時には、ホーム立替により購入している。購入時は、ご本人と一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の協力が得られた所には電話の支援もしている。手紙は書いて頂ければお出ししている。ご本人様持ちの携帯電話でご家族と連絡を取っている入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月々や季節で飾りつけを変更し、季節感を味わって頂ける様に工夫している。行事やドライブに行かれた際の写真を飾り、その後も思い出を楽しめるようにしている。	毎月、模造紙に絵を描いたり、貼り絵をして壁に貼り季節感を表現している。七夕の時には、竹を立てて願い事を書き笹に掛けて楽しんでいる。あるいは、行事や外出の際の写真を壁に貼り、その時の思い出の切っ掛けとなるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を設置し、談笑したり一人でゆっくり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ってきて頂く様支援し、ご家族との写真を飾ったり、アルバム等を持ってきていただいて、落ち着いて過ごせるように工夫している。	認知症の方は昔の思い出が強く、昔の思い出が今の思い出となっていることが多い。昔の写真を見てその写真の話をすることで、本人が生き生きとすることがある。長く居室で過ごされる方は、部屋でテレビを見たり寝たりすることが多く、職員は時々部屋を確認することで、利用者の様子を把握している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・わかる事はやって頂き、出来ない事・わからない事は職員がお手伝いして、出来るよう支援している。		